



2022年5月9日

各 位

会 社 名 竹田印刷株式会社
 代表者名 代表取締役社長 木全 幸治
 (コード番号 7875 東証スタンダード・名証メイン)
 問合せ先 取締役 常務執行役員
 経営統括本部長 細野 浩之
 (TEL 052- 871-6351)

連結業績予想の修正及び個別業績の前年実績値との差異に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、2021年11月12日に公表した2022年3月期の通期連結業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、個別業績の予想値につきましては公表をいたしておりませんが、同時開示基準に従いまして、前期実績値との差異につきまして下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期 通期連結業績予想数値の修正 (2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 [A]	32,000	500	600	550	67.26
今回修正予想 [B]	30,600	813	921	758	92.74
増減額 [B-A]	△ 1,400	313	321	208	—
増減率 (%)	△ 4.4	62.6	53.6	37.9	—
(ご参考)前期実績 (2021年3月期)	31,108	360	478	△ 1,342	△ 164.80

修正の理由

デジタル化の進展による国内印刷市場の縮小や新型コロナウイルス感染症の影響により、印刷事業と物販事業で苦戦を強いられたため、売上高が前回予想を下回る見通しとなりました。利益面では、年間を通して半導体関連マスク事業が好調に推移したほか、印刷事業でのワンストップソリューションによる付加価値提案、物販事業での利益率改善、生産拠点・設備の見直しなどによる固定費削減に取り組みしました結果、営業利益及び経常利益が前回予想を上回る見通しとなりました。親会社株主に帰属する当期純利益につきましても、特別損失として当社が関東地区で保有する固定資産(建物、生産設備等)の減損損失83百万円などを計上いたしますが、前回予想を上回る見通しとなりました。

2. 2022年3月期 個別業績の前年実績値との差異 (2021年4月1日 ~ 2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期実績 [A] (2021年3月期)	14,067	17	219	△ 1,519	△ 186.62
今回発表予想 [B]	14,015	277	569	688	84.15
増減額 [B-A]	△ 51	260	350	2,207	—
増減率 (%)	△ 0.4	—	159.6	—	—

差異の理由

売上高と営業利益につきましては、上記「1.2022年3月期 通期連結業績予想数値の修正」に記載のとおりです。経常利益につきましては、受取配当金の増加などによるものです。当期純利益につきましては、当期に特別利益として関東事業部の社屋売却等による固定資産売却益3億円や投資有価証券売却益40百万円を計上したほか、法人税、住民税及び事業税が1億17百万円増加しました。また、前期に特別損失として固定資産除売却損1億41百万円、減損損失2億72百万円(当期は前述の83百万円)、特別退職金及び再就職支援費用5億93百万円、繰延税金資産の取り崩しなどによる法人税等調整額7億11百万円などを計上しているため、前期実績値を上回る見通しとなりました。

(注)通期連結業績予想及び個別業績の前年実績値との差異につきましては、現時点における入手可能な情報に基づいて算出しておりますが、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があります。

以上